

東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

◦ 図書館とともに……………事務部長 松川 衛… 1	◦ 記念資料室だより
◦ 思い出 本館調査研究室研究員 文学部助手 坪井 一… 3	◦ 昭和62年度情報検索担当者会議…………… 9
◦ 第1回国立大学図書館協議会シンポジウムに 参加して……………医学分館 阿部 佳市… 5	◦ 学術図書資料購入助成金の寄附について
本 館 武田 光佳	◦ 附属図書館の概況……………10
◦ T-LINES 進捗状況…………… 6	◦ 昭和62年度上半期文献複写実績……………12
◦ 昭和62年度第2回東北大学図書館総合研修会………… 7	◦ 「利用案内」を全面改訂……………13
◦ 蔵書検索システムのオリエンテーション	◦ 和算関係資料の帙作成
◦ T-LINES 完成記念式…………… 8	◦ 人事異動
	◦ お知らせ……………14
	◦ 編集後記

図 書 館 と と も に

事 務 部 長 松 川 衛

時の流れは早いもので大学図書館に採用されて以来38年、定年を迎えるに当り過ぎ去った時代が今走馬燈のように懐しく想い出される。これまで私を支えてきたランガナータンの「図書館学の五原則」やオルテガの「司書の使命」に加えドナルド・アーカートの言う「図書館は利用者のためのものである」を含む18ヶ条の「図書館業務の基本原則」が忘れ難い。またその折にふれて歴代の館長から御教導頂いたことが大きな励みになっている。

片平丁本館時代（昭和24年9月～43年3月）

最初は書庫閲覧掛、翌年度庶務受入掛に配置換、夏目漱石の日記、断片を含む身辺自筆資料や林鶴一、藤原松三郎、土井晩翠等の蔵書が陸続と受入られた。児島喜久雄教授旧蔵書受入時は、下北沢の御自宅まで出張し1,500冊検収後、午後7時日本橋で蔵書を積んだ貨物トラック便に同乗し徹夜で運行、翌日午後2時図書館に到着という初体験。32年洋書目録に配置換、大類文庫で初めて Pomponius

Laetus 著 Romanae historiae compendium……Venezia, 1478年他5点の incunable に遭遇できた倖倖。39年受入掛長に昇任し、監督者研修で業務改善の刺激を受け、本学明治以来の業務の見直し省力化合理化を目指す整理方法の変更、受入登録番号の一元化、図書原簿の廃止に踏み切ったこと。40年学生のための指定図書制度実施時の業務特別措置の提案。41年開板年代の明確な日本最古の印刷物と言われる無垢浄光陀羅尼（百萬塔陀羅尼 770 年）を入手するまでの根気と執念。42年 大学紛争学生問題資料コーナーを 教官閲覧室の一部に設置することになり、当日新聞等に掲載された関係資料はその日の内に展示するという事で情報は早くなければ価値がないことを教えられた。その頃、地域社会の市民にも毎月公開していた「月例展示会」に参画したが、準備はすべて時間外の仕事であった。

医学図書館時代（44年5月～54年3月）

事務主任に昇任、心機一転、毎年目標設定し全力投球の意気に燃えた。学園紛争の激しい中、高橋館長の命により閲覧室外壁の貼り重なったビラ剥落は暗闇に一人息をひそめて剥落した恐しさ。或は学生による事務局長室占拠を職員で奮還すべくバリケード前で学生と口論した向う見ずの覇気。45年東北地区内未所蔵外国雑誌の分担収集体制の開始。目録業務の標準化と合理化を図るための JAPAN-MARC, LC-MARC による印刷カードの積極的導入。46年10月地区内協議により BLLD（英国国立図書館貸出部）へ文献複写依頼しコピー取寄せを可能としたこと。47年9月 医学部基礎研究棟新築に伴い附属病院旧第二内科研究棟への図書館移転騒動。48年3月、デンマークにおける図書館セミナーに参加しヨーロッパ7ヶ国の各種図書館を視察できたことは、その後の図書館施策運営に大いに役立った。48年から51年まで 医学部教室員会学術文化部と相提携し医学研究者を対象として講演研修会を開催、松村多美子、川野惟二、阿部 裕、樫田良精各講師に「文献情報の機械検索について」「医療情報システムについて」等国際的状況をふまえて講演頂き、毎回参加者は150名を越え盛会であった。継続外国雑誌の抜本的見直し等、その後も医学分館連絡委員会として貢献している。51年4月に事務長職を拝命、当時の図書館の現状と問題点は「民衆新聞」90号に寄稿した。52年文部省の提唱する主題別外国雑誌センターの医学・生物系拠点館として大阪大学と九州大学が2種の指定を受けた。雑誌の種類数と機能において劣らぬ本学が指定されぬのは何故か、早速商議会、東北地区医学図書館並に地区大学図書館協議会に諮り賛同を得て文部省に要望した。幸に53年4年から2種（地域センター）館として承認を受け現在に至った。53年6月、宮城県沖地震（M 7.5）の際は仮住居の古い建物であっただけに書棚の損壊被害も激しかったが鈴木館長、事務局経理部の特段の配慮により学内で災害復旧第1号となった。その年12月かねてから田崎館長の将来構想であった東北医学情報センターは、石田学部長、松川金七医師会長、同窓会その他の関係者の協力を得て創設、併せて東京以北に設置の無かった日本科学技術情報センターのオンライン情報検索サービス（JOIS）を誘致し、専用回線を敷設端末機を備えて稼動開始した時の喜びは大きい。

転任時代（54年4月～63年3月）

54年4月九州大学に赴任、大型コレクション経費による Charles Perrat 博士（中世史研究者）愛蔵コレクション約3千点の冊子体目録作成作業に携わって完成した方々の労苦が偲ばれる。JOIS, DIALOG の設置、業務電算化は北部九州地区による最初のネットワーク形成に、職員一同炊出による

残業徹夜を厭わず頑張りを通した九州男児の意地。57年4月山口大学では計算センターと図書館との共同利用型による業務電算化、図書館利用規程の改正、図書館増築移転、祝賀式、58年度全国図書館大会の開催協力等。59年4月から北海道大学、図書館増築移転と祝賀式。ロシア革命史の中核的資料と言われる Bernstein Collection の購入、学術情報課の設置、利用者前提の業務電算化等。61年4月から東北大学、片平丁旧図書館が記念資料室として改装され、10月には開館記念式並に創立百周年記念第二高等学校史料展があり、62年6月には本学80周年記念資料展を開催、市民にも公開し好評であった。業務電算化は T-LINES（東北大学図書館情報処理ネットワークシステム）と名付けられ学術情報システム並に TAINS（東北大学総合情報ネットワークシステム）の一環として構築、後発のメリットを最大に生かし全業務を極めて短期間に稼働させることが出来たのは東北の内に秘めた館員の底力の現われであると感じている。12月 T-LINES 完成記念式を迎えることができたことは同慶の至りである。図書館増築は62・63年度で現建物の西側に建築することが可能になった。これらのことは、すべて館長はじめ、事務局、部局の教職員の理解と協力のお蔭であると感謝している。転任期間中、それぞれ貴重な体験を得、その土地土地の歴史と風土、温かい人情に触れ、多くの知己を得たことは、私にとって何物にも変え難い大きな財産であり生涯大事にしたいと思います。また良き上司、矢島玄亮、長尾公司、平 清二、沙藤隆茂さん等、先輩・同僚そして後輩に恵まれたお蔭で今日まで大過なく務めることができたことを茲に紙上を借りて心から深く御礼申し上げます。残り少ない期間誠意をもって頑張りたいと思っております。

思　　い　　出

本館調査研究室研究員
文学部助手

坪　井　　一

ゲート論で高名なシュタイガー教授夫妻を書庫に案内したとき、「東北大学図書館はハイデルベルク大学より蔵書の数が多い。」と申されるので、思わず、「ご冗談を」と、ヨーロッパの古い歴史をもつ大学と、開学以来百年にも満たない大学とでは、蔵書構成がまるっきり異なるであろう、と申し上げたところ、教授は沈んだ声で、「ハイデルベルク大学は、二度に亘って、その蔵書をヴァチカンに献納せねばなりませんでした。」と話された。カトリック教国に対するヴァチカンの影響力は、政治の世界においても強く、西ドイツ政府からヴァチカン国に派遣される大使の地位は、ワシントン、ECに次ぐものとかねて聞いてはいたが、度々重なる戦争の収拾とその後の困難な国際関係を生き延びるために、ハイデルベルク大学は、ドイツ最古の大学であるがゆえに、数百年をかけて収集した貴重な資料をも代償として供出しなければならなかったのであろうか。

昨秋来館された政治学のローゼ教授には、要望にそって、書庫2階に案内し、チベット大藏經と狩野文庫、ならびに貴重書の一部をお見せしたが、同文庫の豊富な資料に驚かれ、「ハイデルベルクに帰ったら、図書館長のシュミット教授に、東北大学図書館のことを話します。」と申しておられた。ハ

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

第1回国立大学図書館協議会 シンポジウムに参加して

標記のシンポジウムが昨年12月10, 11日の2日間、東京大学附属図書館を会場に東日本地区の国立大学から30余名が参加して行われた。本学からは2名出席したが以下はその報告である。

第一部 図書館業務のシステム化と目録システム

問題提起は現在進められている学術情報センター(NC)目録所在情報サービスに関する問題と図書館業務の電算化を進めるための考え方についてであった。

1. 学術情報センター目録所在情報サービスについて

目録所在情報サービスはいうまでもなく大学の所蔵する学術資料をデータベース化するためのシステムである。問題提起はいかにスピーディに、多くのデータを登録できるかということであった。ひとつはシステムの使い勝手であり、リンクのオプション化と書誌構造の2階層化の是非について、もうひとつは全点入力についてである。前者の背景には現在NCへの書誌所蔵登録が増えていとはいえ接続館の数からすればまだ少ないという現状があり、後者はNC目録システムの機能をローカル側で実現できないというローカルシステム側の限界の問題に対応しての策ということであった。

討論では特に反対する意見はなかったが、リンクのオプション化については、検索に1ステップ多くなるだけであるとする考え方があるが全国総合目録をつくるとする立場からは賛成しがたい。問題はNCの著者名典拠ファイルの不備にあり、典拠データが多くなればかえって登録がスムーズになると思われるのである。世界の趨勢はリンクする方向にある。

書誌構造の2階層化については、たぶんシステムの容量の大きさによる問題であり、特に中小規模の大学図書館のパッケージでは階層リンクのないシステムが多く現実的な処置であろう。

3つ目は、全点入力、当然NCへのことであるが、端末の接続台数の保有数の問題、システムの操作性の問題、NCで提供していない文字の問題、等々あると思われる。

2. 図書館業務電算化の進め方について

電算化はまず目録システムの構築を第一に実現しなければならないし、カード目録の出力にサービスの主眼をおくのではなくオンライン情報検索(OPAC)に主目的をおくべきである。また、今後大学図書館の電算化を進めるためにはシステムのパッケージ化が必要であり、処理の標準化ということを考え導入すべきである。特に、パッケージを採用する場合は目録システムの構築を基本にすえて進めることが必要で、その他のハウスキーピングは余力があれば行うようにすべきであるとの問題提起であった。

最後にシンポジウムの持ち方についていえば参加する対象者を実務者に限定すべきであったし、2つの問題を一緒に席で行うというところにも問題があるように思われた。特に、目録システムについては接続館による日常的な連絡調整が必要であり、独自の集まりを要望したい。

(医学分館 阿部佳市)

第二部 相互協力活動の推進

(1) 現物貸借・文献複写

相互貸借関係では、前途には難しい問題が多々横たわっているが、これらを乗り越えて相互貸借を推進して行かねばならないという結論に達した。即ち、各々の学内にあっては、人員不足である、図書館(室)が距離的に離れている、研究室所蔵のものは持出にくい等の壁があり、また対外的には図書館の規模に大小の差があり大規模図書館と小規模図書館との貸借ではどうしても後者が前者から借出すケースが多く遠慮がちになるという弊害、担当者の対応の仕方のためか近距離の図書館を飛越えてわざわざ遠距離の図書館との貸借に頼るという不合理、基本料送料等料金負担の問題などが相互貸借を推進する上で障害になっている。シンポジウムでは以上のような問題提起があり、

種々討議されたが決定的な解決の糸口も見出せじまいであった。かつては、相互貸借はよく行われていたが、複写機の出現、普及と共に次第に廃れていったように思う。利用者サービスの観点から、相互貸借の推進の方向に前進しなければならないことであろう。

(2) 大学図書館の公開

図書館の公開では、資源の共有という観点から学外者、一般市民にも開放することが唱えられてきた。大学図書館の重要な施設、貴重な資料を学外者にも利用を供するという主旨はそれはそれで意義のあることだと思いが、問題なしとはしない。大学図書館とは、そもそもその大学の研究者、学生の教育研究のために存在するものであり、当

館に限っていえば施設、資料、人員等もそれに見合うだけのことしかなく余裕はない。さりとて、研究、調査のために来館した学外利用者に門を閉すわけにもいかず、どうにか対応している現状である。当館固有の資料とか、授業の休業中の利用とかであればまだしも、繁忙極まる試験期などにも安易に利用されることも度々で窓口は少ない人員で学内外利用者の応対に苦慮している状態である。シンポジウムに参加した各大学とも大同小異であったようだ。近くの他大学図書館、公共図書館の充実を切に願うとともに、大学図書館も施設、人員等を整えて学外利用者を歓迎できる態勢の方向に持って行かなければならないようだ。

(本館 武田光佳)

T-LINES 進捗状況

昭和62年2月から運用を始めた T-LINES は、9月までに当初仕様について開発がほぼ終了し、全面的な本稼動に至った。

1. 主要事項

5月～9月○メーカー派遣 SE によるプログラミング講習会を開講し、本学担当のプログラムを製造(受講者9名)

7月 ○和雑誌の製本 DB 作成作業開始

9月 ○T-LINES のシステム評価及び将来計画検討のため「図書館情報システム検討

会」発足。TAINS(東北大学総合情報ネットワークシステム)への対応もここで検討

10月 ○第2回システム負荷テスト実施

○本分館において教官に対する蔵書検索システムオリエンテーション開催(操作法説明及び実習)

12月 ○T-LINES 完成記念式

1月 ○雑誌ケース2リリース

2月 ○「学術情報ネットワーク」に接続

2. 主要ファイル構築状況(昭和63年2月8日現在)

データベース		雑誌管理	
単行書誌	17,931件	受入雑誌 ファイル	23,578件
集合書誌	3,557	受入巻号 ファイル	96,580
雑誌書誌	25,602	閲覧管理	
雑誌所蔵	27,103	簡略書誌 マスタファイル	506,177
雑誌製本	35,157	貸出 ファイル	9,014
共通ファイル管理		図書管理	
利用者 マスタファイル	18,778	I P F	31,861

昭和62年度第2回東北大学図書館総合研修会

今年度第2回総合研修会は、去る11月30日(月)本館大視聴覚室を会場に、仙台市博物館副館長浜田直嗣氏と図書館情報大学教授山本毅雄氏を講師に迎え、開催された。本学職員の外、近隣大学図書館の方々も加え約70名の参加者があり盛会であった。

「博物館資料をめぐって」と題された浜田先生の御講演では、まず博物館の成り立ちは、昭和27年に仙台藩主伊達家の文化財、古文書等が仙台市に寄付され、これを元に昭和36年に博物館が建設されたということ。

博物館貸料の種類としては、古文書、絵画、武器、家具調度、染織服飾などがあるが、その収集は、支倉常長や伊達家関係のように地方に根ざした個性のあるものが望ましい。その保存管理については、収蔵庫の環境特に温湿度、空調関係が最

も重要である。又、博物館としては、研究を土台にした資料の展示というものをまず第一に考えており、専門職員である学芸員を中心に利用者へのサービスを行なっているということであった。

「新しいメディアと図書館」と題された山本先生の御講演は、計算機関連の技術は、目ざましい進展が見られ、最近 Human-Interface が重視されるようになった。これはシステムと人間の境目の部分を工夫して「使い勝手のよい」システムを設計しようとするもので例えば、端末の精度(色・字体)やコンパクト型光ディスク(CD)を、計算機の読出し専用メモリ(ROM)として利用する、いわゆる CD-ROM の技術について研究が進められているという興味あるものであった。

(総合研修委員会)

蔵書検索システムのオリエンテーション

T-LINS の蔵書検索システムは、昭和62年4月よりサービスを開始した。これにより本館及び分館にある利用者用端末から本学所蔵の図書・雑誌をオンラインで検索できるようになった。

蔵書検索システムのオリエンテーションは、研究者を対象として昭和62年10月5日から28日までの間に本館で3回、工学分館で2回、医学・農学・北青葉山の各分館でそれぞれ1回ずつ計8回行い、合せて120名を越す出席者があった。学生を対象としたオリエンテーションは、昭和62年11月24日25日の2回本館に於いて行い、約40名の出席者があった。

総体的に出席者の数が、予想以上に少なかったのは残念であったが、出席者は皆興味深く聴講してくれたので、ある程度の成果が得られたことと思われる。

次に出席者からの質問として次のようなものがあった。

1. 利用者用端末は、本館・分館以外にも設置される予定はないか。
2. ローマ字・カナ変換機能がないので使いにくい。
3. 入力データの数が少ない。(遡及入力の設定は?)
4. 研究室にある端末に接続して使用できないか?
5. 他大学の所蔵まで探せないか?
6. 論文の検索は可能か?
7. 文献の主題から探せるか?
8. 前方一致の使い方
9. 雑誌の略号からの探し方

おわりにこの蔵書検索システムは、初めての方でも使いやすいものになるように作られており、カード目録に代わるものとして、おおいに活用していただくことを期待している。

T-LINES 完成記念式

昭和62年12月7日、T-LINES（東北大学図書館情報処理ネットワークシステム）の完成記念式が学内外からの来賓 100 名御出席のもと、本学松下会館において盛大に行われた。

記念式に先立ち附属図書館において、既に本稼動に入っている T-LINES 各業務の見学が行われたが、その中でもとりわけ画面誘導型の検索システム、オンラインリアルタイムを実現した学術雑誌各号の到着状況などが特に注目を集めていた。

記念式は、塚本哲人附属図書館長から T-LINES

の計画から完成に至る経過報告と謝辞があり、「T-LINES は TAINS（東北大学総合情報ネットワークシステム）の基幹システムとして更により高次のシステムに育てたい」との抱負が述べられ、つづいて文部省西尾学術情報課長が「学内 LAN、学情 VAN により T-LINES は学内・国内のみでなく国際的にも学術情報流通の拠点となるよう、近未来の大学図書館の在り方を模索しつつその先導的役割を果たされることを期待する」また、国立大学図書館東北地区協議会を代表して東義郎弘前大学附属図書館長が「T-LINES の完成を機に更に東北地区のセンター館としての機能を発揮して欲しい」、最後に本学石田名香雄学長が「T-LINES は TAINS の完成と相俟って、本学の研究・教育を飛躍的に高める原動力となることを期待する」とそれぞれ祝辞が述べられたが、いずれも新しい時代における東北大学附属図書館の在り方について多くの示唆を与えるものであり、当館への期待の重さを改めて考えさせられるものであった。



記念資料室だより

先の臨時国会において「公文書館法」（昭和62年法律第115号）が成立した。同法は「公文書等を歴史資料として保存し、利用に供することの重要性にかんがみ、公文書館に関し必要な事項を定めること」を目的とするものであり（第1条）、以下、①国および地方公共団体は「歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を有する」こと（第3条）、②公文書館は「公文書等を保存し、閲覧に供するとともに、これに関連する調査研究を行うことを目的とする施設」であること（第4条）、③「公文書等についての調査研究を行う専門職員」を公文書館に置くこと（同上）、④国は「地方公共団

体に対し、公文書館の設置に必要な資金の融通又はあっせんを努める」こと（第6条）などが定められた。

公文書の歴史史料としての重要性が夙に指摘されながら、従来、それらの多くは保存期限切れとともに廃棄されてきた。国立大学にあっても然りであろう。大学の公文書は、その大学の足跡を示す史料としてばかりではなく、広くわが国文化史の一側面を語る史料としても極めて貴重である。公文書の保存を国および地方公共団体の責務と謳う「公文書館法」の制定を契機に、東北大学における公文書の保存体制をもう一度見直してみてもどうか。

昭和62年度情報検索担当者会議

東北地区医学図書館協議会の主催による標記会議が、本学医学分館に於て開催された。この会議は本協議会加盟7館の、JOIS等オンラインによる文献検索の担当者が一堂に会し、講師による新しいFileの解説講演、各館の検索事例の報告、質疑、意見交換等を行うものである。会議の日程及び概要は次のとおりである。

期日：昭和62年12月3日(木)～12月4日(金)

当番館及び会場：東北大学附属図書館医学分館
AV室

第1日目：12月3日(木)、開会：13.30

挨拶 勾坂医学分館長

関係者の紹介 阿部医学分館事務長

JICST 東北支所長挨拶 木村忠男氏

出席者の紹介、各館毎の業務報告

講演 STN International (国際科学技術情報ネットワーク) サービスの開始について

講師 JICST 業務課長 栗田信氏

— 休憩 —

検索事例の検討 JICST への質疑、説明、各館相互の意見交換

T-Lines (東北大学図書館情報処理ネットワークシステム) の端末見学

第2日目：12月4日(金)

検索実習 医学分館情報検索室 9:00

散会 11:00

ちなみに同会議は第1回を「JOIS 実務担当者会議」として昭和56年9月18日に当館で開催して以来毎年開かれ、現在に至っている。

(医学分館)

学術図書資料購入助成金の寄附について

昭和62年10月、東北大学名誉教授水野勝義氏(医学部)から医学分館所蔵の眼科学関連学術図書資料の整備充実を図ることを寄附目的とした「学術図書資料購入助成金」として、金200万円のご寄附の申し出が医学分館長宛にありました。

先生は、昭和46年7月から眼科学講座を担任され昭和61年4月にご退官されておりますが、常に医学分館の管理運営にご配慮され、資料の充実と資料費の削減については特に憂慮されていたと仄聞しております。

ご退官されてからまでも医学分館のために暖かいご配慮をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。

医学分館では、水野名誉教授からの申し出とご

趣旨を有難くお受けすることにいたしました。その受入手続きにつきましては、医学部事務部のご協力により「奨学寄附金」としての寄附受入手続きを終了し、資料の選定に着手いたしました。資料の選定については眼科学講座の玉井教授にもご依頼をし、眼科学関係の図書は勿論のこと、眼科学関連分野の学術図書資料を選定購入し、資料には「水野名誉教授寄贈」印を刻し医学分館に一括配架をして研究者・学生に広く周知して利用に供する所存であります。

先生のご厚情に対して、この場をかりて改めて厚くお礼を申し上げますと共に益々のご健勝をお祈りいたします。

(医学分館)

附属図書館の概況

この概況は毎年度実施される大学図書館実態調査のうち主な項目を取りまとめたものである。

表1は昭和59～61年度の本学の概況、表2は昭和61年度部局別のそれである。

表 1

区 分		昭和 59 年度	昭和 60 年度	昭和 61 年度
蔵 書	和	1,278,479 冊	1,318,423 冊	1,359,123 冊
	洋	1,234,830	1,271,697	1,309,979
	計	2,513,309	2,590,120	2,669,102
所 蔵 雑 誌 数	和	22,768 種	22,837 種	22,972 種
	洋	28,838	28,997	29,047
	計	51,606	51,834	52,019
年間図書受入数	和	32,464 冊	39,965 冊	40,707 冊
	洋	37,703	36,959	38,276
	計	70,167	76,924	78,983
年間雑誌受入数	和	9,835 種	9,951 種	9,997 種
	洋	10,928	10,825	10,996
	計	20,763	20,776	20,993
象奉 者仕 数対	学 生	13,608 人	13,927 人	14,510 人
	教 官	2,441	2,107	2,484
一奉 人仕 対 当 象 者	蔵 書 数(冊)	156	162	157
	年間図書受入数(冊)	4	5	5
	図書館資料費(千円)	48	47	45
図 書 館 職 員 数	総数	166 人	154 人	145 人
	専任	96	91	83
	臨時	70	63	62
図書館職員1人当り 奉 仕 対 象 者 数 (人)		96	104	117
図 書 館 資 料 費 (千円)		767,046	756,905	770,925
大 学 総 経 費 (千円)		56,159,924	54,826,025	54,181,358

表 2

部 局		職員数 ()内は 定員外 職員： 内数	蔵 書 (昭和62.3.31現在)						昭 和 61 年 度 受 入 数						昭 和 61 年 度 経 費				施 設 (昭和62.5.1現在)					
			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 館 資 料 費				運営費 (職員給 与を除く) (千円)	座席数 (席)	延面積 (㎡)	閲覧室 スペース (㎡)	書 庫 スペース (㎡)	収容可 能冊数 (冊)
			和	洋	計	和	洋	計	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	図 書 (千円)	雑 誌 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)						
本 館	本 館	63(24)	532,317	269,212	801,529	11,210	11,937	23,147	11,536(7,998)	6,363(4,421)	17,899(11,687)	1,985(498)	925(589)	2,910(1,087)	98,625	40,618	0	139,243	171,042	925	12,480	2,839	4,552	1,050,139
	文	2(1)	155,472	95,258	250,730	813	712	1,525	6,500(5,219)	3,665(3,226)	10,165(8,445)	529(217)	506(495)	1,035(712)	49,663	9,550	1,142	60,355	4,182	1	68	2	10	4,972
	教	2(1)	40,212	25,703	65,915	735	319	1,054	1,364(1,095)	703(696)	1,967(1,791)	478(106)	235(226)	713(332)	12,120	5,591	0	17,711	2,851	30	368	89	90	11,944
	法	3	76,085	97,704	173,789	779	495	1,274	6,186(1,990)	7,896(2,194)	14,082(4,184)	546(148)	302(328)	908(476)	45,274	6,786	0	52,060	4,339	33	699	65	444	59,667
	経	4(1)	137,344	130,610	267,954	1,331	840	2,171	3,971(3,545)	2,466(2,442)	6,437(5,987)	810(125)	413(353)	1,223(478)	36,737	12,055	0	48,792	8,364	18	259	45	125	27,472
	農 研	2	22,334	10,115	32,449	383	273	656	592(440)	237(45)	829(485)	253(45)	235(71)	488(116)	2,976	4,061	0	7,037	746	10	206	18	160	32,638
	選 研	2(1)	6,373	12,743	19,122	251	267	518	166(36)	401(107)	567(133)	128(45)	146(107)	274(152)	2,631	7,790	0	10,421	2,344	16	246	37	144	25,972
	科 研	2(1)	3,912	12,714	16,626	283	135	418	29(20)	143(50)	172(70)	256(10)	111(67)	367(77)	1,002	7,589	0	8,591	1,975	20	574	58	375	36,556
	速 研	2(1)	10,741	15,097	25,838	84	250	334	203(151)	401(180)	604(331)	243(33)	196(118)	439(151)	3,631	7,937	17	11,585	5,004	8	212	27	163	30,111
	通 研	2	5,638	14,151	19,849	125	246	371	161(45)	643(119)	804(164)	290(72)	254(177)	544(249)	2,099	12,901	3	15,003	2,044	10	335	59	247	28,278
	非 水 研	2(1)	5,138	17,210	22,348	83	222	305	182(61)	600(145)	782(206)	55(30)	142(136)	197(166)	3,640	13,934	0	17,574	2,719	28	331	63	252	32,972
	応 情 研		497	1,278	1,775	3	41	44	7(7)	10(10)	17(17)	6(6)	23(23)	29(29)	147	1,173	0	1,320	95					
	サイクロトロン	2(2)	736	2,291	3,017	4	34	38	32(27)	195(25)	227(52)	4(4)	34(34)	38(38)	800	5,118	0	5,918	6,324	5	98	12	35	5,728
大 計	1(1)	1,865	1,545	3,410	30	36	66	58(58)	24(24)	82(82)	24(24)	32(31)	56(55)	420	1,418	0	1,838	2,991	1	59		46	3,889	
計	89(34)	998,720	705,631	1,704,351	16,114	15,807	31,921	30,877(19,950)	23,747(13,684)	54,624(33,634)	5,607(1,363)	3,614(2,755)	9,221(4,118)	259,765	136,521	1,162	397,448	214,920	1,095	15,835	3,314	6,643	1,350,388	
医学分館	22(12)	120,625	184,032	304,657	1,677	4,481	6,158	3,486(2,615)	4,913(4,130)	8,399(6,745)	1,078(454)	2,452(2,016)	3,530(2,470)	27,469	82,255	0	109,724	46,754	327	4,025	256	2,190	418,222	
北青葉山分館	12(5)	54,453	212,343	266,796	2,015	5,773	7,788	1,549(1,009)	4,177(1,039)	5,726(2,048)	1,242(796)	2,823(1,933)	4,065(2,729)	20,364	74,166	0	94,530	32,663	248	3,356	1,140	1,310	296,194	
工学分館	10(6)	119,997	126,095	246,092	1,643	1,617	3,260	3,343(2,208)	3,315(1,336)	6,658(3,544)	1,133(301)	1,154(861)	2,287(1,162)	36,901	65,569	532	103,002	28,256	174	2,712	948		84,444	
農学分館	6(2)	49,464	36,995	86,459	1,245	830	2,075	1,215(700)	1,011(294)	2,226(994)	684(113)	609(273)	1,293(386)	8,558	22,769	197	31,524	10,941	116	1,279	326	418	71,444	
全 研	6(3)	15,364	44,883	60,247	278	539	817	237(135)	1,113(309)	1,350(444)	253(63)	344(194)	597(257)	9,570	25,340	1,122	36,032	4,072	30	433	28	323	56,777	
総 計	145(62)	1,359,123	1,309,979	2,669,102	22,972	29,047	52,019	40,707(26,617)	38,276(20,792)	78,983(47,409)	9,997(3,090)	10,996(8,032)	20,993(11,122)	362,627	406,620	3,013	772,260	337,606	1,990	27,640	6,012	10,884	2,277,469	

※ 教養部、情教セ、学生部(保セ)は本館に含む。

昭和62年度上半期文献複写実績

国立大学等図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和62年度上半期（4月～9月）分実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	支払区分	受 付		依 頼	
		件 数	金 額 (円)	件 数	金 額 (円)
附 属 図 書 館	校私合	339	302,095	101	181,442
	校私合	124	133,215	283	199,690
	校私合	463	435,310	384	381,132
医 学 分 館	校私合	1,524	645,325	314	124,255
	校私合	663	274,944	165	78,580
	校私合	2,187	920,269	479	202,835
工 学 分 館	校私合	299	131,660	207	100,895
	校私合	34	10,635	10	6,150
	校私合	333	142,295	217	107,045
農 学 分 館	校私合	248	105,290	84	38,615
	校私合	57	18,635	70	26,810
	校私合	305	123,925	154	65,425
北 青 葉 山 分 館	校私合	440	269,385	36	23,770
	校私合	86	50,100	98	48,315
	校私合	526	319,485	134	72,085
理学部附属臨海実験所	校私合	7	7,700	0	0
	校私合	1	300	0	0
	校私合	8	8,000	0	0
合 計	校私合	2,857	1,461,455	742	468,977
	校私合	965	487,829	626	359,545
	校私合	3,822	1,949,284	1,368	828,522

昭和62年度上半期（4月～9月）分文献複写受付および依頼国立大学等図書館別実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	受 付			図 書 館 名	依 頼		
	支払区分	件数	金 額 (円)		支払区分	件数	金 額 (円)
北 大 文	校私合	8	5,880	北 大 図	校私合	5	780
	校私合	5	16,450		校私合	13	7,440
	校私合	13	22,330		校私合	18	8,220
北 教 大 函 館	校私合	3	18,395	山 形 大 図	校私合	3	1,445
	校私合	0	0		校私合	4	4,310
	校私合	3	18,395		校私合	7	5,755
弘 大 図	校私合	16	11,425	筑 波 大 図	校私合	0	0
	校私合	9	3,680		校私合	18	7,500
	校私合	25	15,105		校私合	18	7,500
岩 大 図	校私合	36	24,140	東 大 図	校私合	19	28,352
	校私合	4	4,325		校私合	37	39,450
	校私合	40	28,465		校私合	56	67,802
東 学 大 図	校私合	0	0	東 工 大 図	校私合	22	6,640
	校私合	12	19,655		校私合	1	345
	校私合	12	19,655		校私合	23	6,985
横 国 大 図	校私合	6	15,330	一 橋 大 図	校私合	4	18,730
	校私合	1	3,140		校私合	24	26,140
	校私合	7	18,470		校私合	28	44,870
阪 大 図	校私合	2	1,780	名 大 図	校私合	4	13,115
	校私合	8	18,225		校私合	27	18,890
	校私合	10	20,005		校私合	31	32,005
阪 外 大 図	校私合	6	25,270	京 大 図	校私合	13	89,780
	校私合	0	0		校私合	11	4,685
	校私合	6	25,270		校私合	24	94,465
九 大 図	校私合	1	6,910	阪 大 図	校私合	0	0
	校私合	11	16,420		校私合	9	6,375
	校私合	12	23,330		校私合	9	6,375
長 崎 大 図	校私合	17	14,100	広 大 図	校私合	2	9,065
	校私合	0	0		校私合	9	18,940
	校私合	17	14,100		校私合	11	28,005
そ の 他	校私合	244	178,865	そ の 他	校私合	9	13,535
	校私合	74	51,320		校私合	130	65,615
	校私合	318	230,185		校私合	139	79,150

（本館で受付および依頼件数の多い上位の国立大学図書館を掲げた。）

「利用案内」を全面改訂

昭和47（1972）年の旧教養部分館との合併を機に現在の体裁で刊行をはじめた利用案内は、学生版「図書館利用案内」（B 5 36頁）と教官版「図書館利用ハンドブック」（B 5 100頁）の二本立てで刊行された1974年版がその最初である。

学生版は、翌年教官版からの一部内容のとり込みによって充実され、1975年版（B 5 60頁）として改訂された。（教官版は改訂されず）

しかし、内容の充実は、一方ではとくに利用者を新入生に限った場合、余りにも煩雑すぎるとの反省から、1976年版からは配布対象を主として新入生にしぼり、体裁・内容の両面で大きく変更した。表紙に仙台の浮世絵画家熊耳耕年の木版画「仙台芭蕉の辻」（昭和6年）を採用したおなじみのもの（A 5 12頁）がそれである。

以来12年にわたり、表紙の帯の部分の色を変え

る外、現状に則した改訂を毎年くりかえし刊行されてきたが、近年の他機関刊行の案内などをみる時、本館のそれは、ややもすると説明等において硬さが感じられた。

1988年版を作成するにあたり、これらの点も考慮し、一層の図書館理解に役立つ利用案内を目ざして全面改訂に踏み切った。配布の主たる対象をこれまで同様新入生におき、内容も図書館の機能やサービスの説明を最小限にとどめ、図面や写真を多用してそれを補うという簡潔さに重点をおいたものとなっている。また、形もこれまでの冊子体からB 5 変形判の折本形式とし、全体をカラフルな仕上げとした。

なお、教官等研究者を対象としたガイドについては、目下全く別個の案内を計画しており、いずれ近々のうちにお知らせできるものと思う。

和算関係資料の帙作成

本館では、林文庫、藤原文庫、岡本文庫等と算書を主体に、天文書、暦算書、測量書を含めた貴重な古文書を多数所蔵している。これら古文書の保存・管理及び運用のために学内措置による特別

予算の配付をうけ、昭和62年度から3か年計画で、これらを収納するための帙を作成することになり、現在作業を進めている。

人 事 異 動

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
62. 12. 14	医学分館 事務補佐員	桑 折 ちえ子		辞 職

お 知 ら せ

(1) 開架閲覧室の閉室について

毎年、年度末の春季休業時に実施している開架閲覧室の配架整備作業を、今年は下記のとおり実施する予定です。この期間中は閲覧室を閉室しますので、あらかじめご了承下さるようお願いいたします。なお、その間の返却図書の受付はメインカウンターで行います。

記

実施期間：3月22日（火）～26日（土）

(2) 卒業（修了）及び退職・転勤予定の方へ —貸出図書の返納について—

昭和62年度を以て、卒業（修了）及び退職・転勤等により本学から異動される予定者で、附属図書館（本館・分館）から図書館資料を借用している方は、期限内にすべてご返納ください。返納が遅れますと、他の利用者にたいへん不便をかけることになりますので、よろしくお願いいたします。借用図書の内訳確認の場合や返納手続等について不明な点がございましたら、本館または分館のカウンターに問い合わせてください。

なお、下記事項には特にご注意ください。

○個人名義で借用された図書をそのまま研究室に残したり、名義の書換なしに同僚や後輩の方に預けたりせず、必ず返納の手続をおとりください。

○退官を以て本学の名誉教授になられる方は、引き続き図書の貸出を受けられますが、事務処理上一旦返納いただいた上で改めて借用手続をおとり願うことになります。

(3) 利用証の交付手続について

利用証の有効期限の切れる方、新たに交付を希望される方は、下記の場所で交付手続を行なって下さい。利用証は本館・分館共通に使用できます。

（交付場所）	（利用者の所属部局）
本 館	川内地区の各部局
医 学 分 館	星陵地区の各部局 （歯・抗研・医短を除く）
北青葉山分館	理学部・薬学部
工 学 分 館	工学部
農 学 分 館	農学部
部 局 図 書 室	歯学部・抗酸菌病研究所・ 医療短大部・片平地区研究 所・センター

編 集 後 記

○編集委員として推せんされたときは、みなさんに親しまれる図書館報をと、はりきった覚えがありますが、載せる内容がある程度決まっているみたいで、結局校正の仕事だけで終わってしまったような気がします。

○我が館報を少しずつでも変化させてゆきたかったが、力不足に終わった。“変化”の為には、編集委員が一丸、中心となり、アイデアをどんどん出し合い、もっともっと各分館の方、図書室の方とも連絡・疎通を密にし、進めてゆかなければならなかったことを反省とします。みんなの“木這

子”になれるように。

○今年度から、T-LINES がスタートし、データ数が2万件を越えたという報告を聞く今日このごろ、年4回発行の木這子も最終号となりました。あわただしい毎日ではありましたが、非常に、思い出深い年になりそうです。

○木這子の記事内容も少しかたくるしいように思われます。教官・学生等からの「読者の声」をとの意見もあり、気軽に読めて図書館がPRできる内容豊富な紙面作りに今年は挑戦したいと思います。

東北大学附属図書館報「木這子」 第12巻 第4号（通巻第48号）発行日 昭和63年2月29日

編集委員長 芳賀 博 編集委員 中島 甫、湯本一義、佐藤博子、高橋 京

発行人 松川 衛 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 222-1800 (2403)